



## 第3回まちづくり市民会議について

魚沼市まちづくり委員会 副会長 葦澤 芳子



2月3日、第3回まちづくり市民会議を小出郷文化会館小ホールで150名近い参加を得て、開催しました。今回は、魚沼を元気にしよう、それには「地域んしょ」と「役所んしょ」が一緒にやらなければならないことを学ぶため、先進地の愛知県高浜市の取り組みを聞きました。

まず、高浜市の神谷福祉部長からは、「合併しないと決めた高浜市（人口45,901人）は、財政力の強化、住民力の強化、職員力の強化を基本理念に、住民との協働を最重要課題として構造改革に取り組みま

した。小学校区を単位にまちづくり協議会を設立、施設面の支援、財政面の支援（交付金）、市職員の支援（まち協特派員）と運営支援システムを作り、育成に努めました。予算と権限を委譲することにより、地域内分権が推進され、住民の自治力が高まりました。市職員が特派員として市民と向き合う活動は、職員力の強化にもつながり、住民と職員が密接な関係を構築することにもなり、住民自らが公共サービスの担い手になる仕組みが実現しました。現在、協働の取り組みは、総合計画に生かされ、新たなまちづくりがスタートしています。」との話でした。

NPO法人高浜南部まちづくり協議会の神谷事務局長からは、「はじめは何をやればいいのか分からない状態だったが、地域の方全員に協力してもらったおかげで、今では地域住民からどんどんやってくれと満足度も上がった。地域の問題にもすぐに対応できることを実感した。困難な状況でもやってみることが大事であり、地域活動には女性の行動力と協力が欠かせない。」との言葉でした。

第2部の意見交換では、まちづくり委員会アドバイザーである広島経済大学の川村教授のコーディネートで、高浜市の神谷福祉部長、高浜南部まちづくり協議会の神谷事務局長、内閣府の館審議官、入広瀬コミュニティ協議会の浅井会長、まちづくり委員会の平井会長よりお話しいただきました。館審議官からは新しい公共のあり方や、進め方などをお聞きし、高浜市の活動と地元の活動を交えたお話しをしていただきました。

参加した人たちからは、「地域んしょ」と「役所んしょ」が協働した話を聞いてよかった、もっと多くの人に聞いてもらいたかったとの声が多く聞かれました。これからも、まちづくり委員会は、「市民全員がまちづくり委員」を合言葉として活動に取り組んでいきたいと考えています。



### 参加者の声

★「行政」「市職員」がやらなければ  
ならないことは何だと思えますか？

- ・地域へ出て、市民の声を聞くこと。
- ・行政、市職員である前に、一市民であることを自覚すること。
- ・住民が頼りにしない程度に関わっていくこと。

★「市民」「住民」がやらなければ  
ならないことは何だと思えますか？



- ・行政に頼るだけでなく、自分たちでできることは自分たちで。人任せにしないこと。
- ・意識改革。「自分たちの地域は自分たちで守る。」という意識を持つこと。
- ・自助、共助の考えを持つこと。

★あなたが今できることは何ですか？  
これからしたいことは何ですか？

- ・地域の皆さんとコミュニケーションを図ること。
- ・町内会行事に参加して、役に立てるようになること。



## 生活自然環境部会

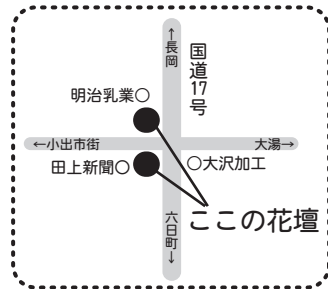
春になったら活動しましょう



昨年より活動を開始した「花いっぱい運動」は、昨年の晩秋に井口新田交差点の花壇の枯れ花を撤去し、春に咲くチューリップの球根を植えました。

春の雪解けが待ち遠しいですね!!

今年は、新たにトンボやチョウチョ、カブト虫やクワガタなどの昆虫やカエルやオタマジャクシを増やす「昆虫コミュニティの復活活動」を始めたいと考えています。活動に賛同する方々の参加をお待ちしています。



1月の部会では、食用油の廃油で作る石ケンについて提案が出され、そうした石ケンを作っている魚沼市消費者協会の方に来ていただき、現状やつくり方を聞きました。一度石ケンづくりを試してみたくまりました。

## 福祉健康部会

高齢者と協同しての地域づくり

福祉健康部会では、下記に示す小グループごとの活動提案書が出されています。

- 地域通貨創設の研究協議会設立
- 魚沼心の駅（やさしい心で思いやり）
- 自分達の老後は自分達で守ろう  
(自分達の老後の設計と実践)
- 100歳まで健康で自分らしい生活を送ります  
(自分の健康意識の育成)
- 高齢者と協同しての地域づくり

高齢者や老後の生活についての提案が多数ありました。今回は、「高齢者と協同しての地域づくり」を提案している佐藤喜郎さんに話を聞いてきました。

佐藤さんたちは、高齢者の健康づくりと孤独化防止を目的として、12年前から上ノ原地区で「じよんのびサロン活動」を行っています。内容は、60歳以上の方を対象として毎月第2・第4火曜日にテーマを決めて集まります。参加者は、弁当代として200円を負担します。スタッフは、ボランティア15名と福祉課職員と講師です。昨年度は、1回当たり30名、延べ550名の参加がありました。

今後は、地域ごとに気軽に楽しめる集まりどころの設置を福祉健康部会に提案していきます。具体的には、空き家や休耕地の活用が考えられます。まず、空き家・休耕地の実態調査、テーマについての市民の意識調査を始めよう提案していきます。



## 視察研修 小布施に行ってきました。



〔みんな一生懸命です。素晴らしい。〕

よく「魚沼市は宣伝ベタ」と言われますが、行政ではなかなか参加できないイベントに、まちづくり委員会として参加し、魚沼市をPRすることができたことは非常に大きな意義があると感じました。

まちづくり委員会が、行政に提言することだけでなく、このような活動を進めることもいいのではないのでしょうか!?

今までに見たこともないくらい、みんながいきいき、協力し合って活動していました。



〔鮎焼きもいよいよ開始です。〕

〔魚沼の食文化のPRもしっかり。〕  
〔観光パンフもすべて配布してきました。〕

## 教育文化部会

1月15日の小正月について

1月15日が国民の祝日ではなくなった関係で、今年はまた小正月の15日が休日ではなく、各地の小正月行事、賽の神などを休日に合わせて12日~14日のいずれかに行ったところが多いようです。

私の住む佐梨地区では、今年は1月14日の休日に行いました。皆さんに参加してもらいたい大事な行事なのに、休日でない子供たちや働く大人たちが参加しにくいからです。

個人的には、賽の神も成人式も1月15日に行う方が良いことと考えます。戦後からズーッと歴史や文化が軽率に扱われているようで残念でなりません。敗戦の影響はあったにしろ、地域の文化を大切に、日本人の更に魚沼人の誇りを持って子供たちには大きくなってもらいたいと思います。

そのきっかけとして、小正月を魚沼市の祝日にしたいという考えは大切なことだと考えます。合理化や利益だけが先行し、本当に大事な物が置き去りにされています。この魚沼の地で五穀豊穡や水の神、山の神などあらゆる神に感謝し、人間も自然の一部であるという考え方は、キリストを神と考える欧米人とは全く違う考えであり、文化です。この国、そしてこの地域で本当に大切にしていける文化をもう一度考え直し、素晴らしい魚沼市をみんなで育てましょう。(I.K)

※教育文化部会の活動に、伝統行事の継承があり、その一環として小正月の1月15日を魚沼市の休日にできたらと活動しています。



## 第2回まちづくり市民会議

昨年11月18日、広神コミュニティセンターで第2回まちづくり市民会議を開催しました。当日は4部会の部会員と一般市民合わせて、約70名の参加がありました。

まず、本年度から取り組んでいる内容について、「会員各自からの提案を実現していくための提案制度の採用で、活動をより身近なものとして達成感を実現していきたい。」旨の説明がありました。

その後、各4部会から「現在部会で取り上げられている提案」をいくつか紹介し、参加者で意見交換をするともに、まちづくり委員会アドバイザーである広島経済大学の川村教授よりアドバイスをいただきました。



# 地域産業振興部会

## チャレンジ精神を応援

私たちの部会は、「この魚沼地域を元気にしたい。魚沼の産業を活発にし、雇用を生み出したい。」との思いを持ちながら活動しています。

過去には、B級グルメチャンピオンの横手焼きそばの実食や、仕掛け人とのディスカッションを行ったこともありました。おいしい物を食べると元気になりますね。

そこで今「食のモニター制度」(ボランティア)というものを企画しているところです。スイーツだけでなく、奇抜な料理を考えてみたが世間の受けはどうなのだろう?という飲食店の方の力になったり、前向きにチャレンジしているお店を応援したりしたいです。そして好評で、魚沼ブランドとして認定されれば、販売しやすい環境もできると思います。

間伐材利用についても、経木と食をつなげてみるなどの意見や、インテリアや家具への利用ができないか。など様々な角度からの意見で部会を進めています。

この魚沼には、住みなれていて気が付かない食文化や伝統や産業が、まだまだあるはずです。アイデア豊富で行動的な方も、そうでない方も、ぜひ一緒に活動し魚沼を元気にしていきましょう。

## 「この一年をふり返って」

魚沼市まちづくり委員会 会長 平井正尚

昨年6月の総会において会長に再任され、あわただしい一年でした。魚沼市まちづくり委員会は、平成20年2月に設立していますから満5年が経過したことになります。そもそもこの委員会は「パートナーシップで創る参画と自立のまちづくり」という市の合併ビジョンの基本目標達成のため、市民と行政が多くの課題の解決やその目標の実現に向かって相互の信頼関係のもとに、協働のシステムを構築し、市民起点による魅力あるまちづくりをとともに汗を流して進めることを理念としています。

自分たちが住んでいるこの魚沼というまち・むら、あるいはごく身近な町内・集落などの地域コミュニティを良くしようという意識や心構えは、一般住民でも行政でも議会の人たちでも同じです。それぞれが違う方向を向いては進む船も前に進みません。平成24年度は、四つの部会で提案制度を取り入れて活動してきました。より多くの人から気楽に意見や知恵を出し合ってもらって、それを具現化して「できるものからまずはやってみよう!」という参画、実践活動に結びつけたかったからです。

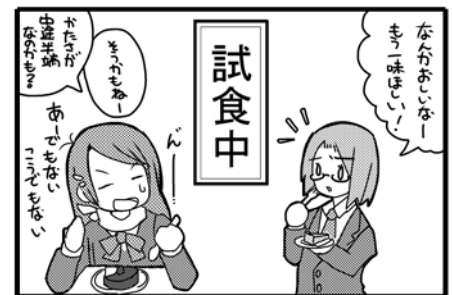
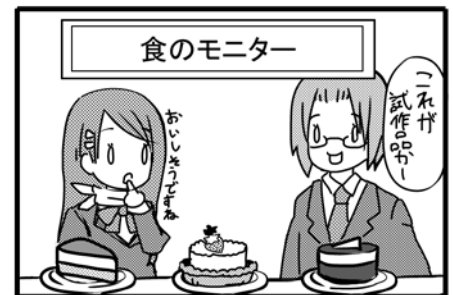
来年の11月には、もう合併後10年を迎えます。そして合併後10年以後の魚沼市のグランドデザインはどう描いていけばいいと思いますか。生活も自然環境も地域産業も、あるいは医療、福祉も教育・文化・スポーツも描くキャンパスは広大です。みんなの参画による魚沼づくりを実現していきましょう。

## 編集後記

春です。今年の2月は寒い日が続きました。

春夏秋冬のはっきりした日本においても、雪国の春は格段の変化をもたらす季節です。雪国の人にとっての春は特別なものがあり、雪の降り続く中、春を待つ気持ちはひとしおです。苦勞でもあり、恵みでもある雪。消えた後に次々に現われる緑、可憐な花たち……。この春の訪れを感じた喜びに、また次の冬を越せる気力をもらおうという人もいます。

次に暑い夏が待っていようと、また冬が来ようと、今この素晴らしい雪国の春を楽しみましょう。みんなで外へ出て活動を始めましょう。活動の場はたくさんありますよ!



平成25年3月25日 第4号 ■発行:魚沼市まちづくり委員会 ■編集:まちづくり委員会だより編集委員

■連絡先:魚沼市まちづくり室(魚沼市役所湯之谷庁舎) Tel 025-792-9752/Fax 025-793-1016  
E-mail:chiiki@city.uonuma.niigata.jp

■まちづくり委員会ホームページ: <http://www.machidukuri-uonuma.com>